

# サキグロタマツメタの駆除方法について

水産研究開発センター環境養殖部

サキグロタマツメタによるアサリの食害についてはもう既にご承知のことと思われます。本種は干潟で目に付くようになってきてからは、駆除に大変な労力を要します。干潟で穴の空いたアサリの死殻を発見したら、警戒信号です。増えてしまった漁場でも駆除しない限りはアサリの生産性は回復しませんし、放置すれば、周辺の漁場へも迷惑をかけます。適切な時期に駆除を行い、少しでも生息密度を減らすことが重要です。

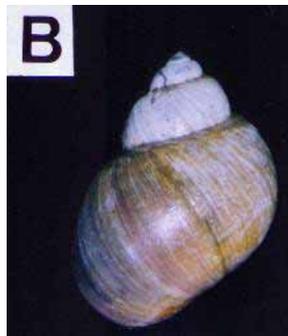
## 【サキグロの生態】

サキグロは潮干狩りが始められる春先から餌となるアサリ等の二枚貝類をもとめて活発に行動するようになります。普段は砂中で生活していますが、干潮時には干潟の砂の上でも這い回るようになります。この頃には1個のサキグロが2日で1個のアサリを食べています。その後、5月下旬頃より、干潟で見られる数が減少していきます。本種が北方種であるため、干潟の温度が高まり生活に不適となるためと思われます。

水温が20℃を下回る9月中旬頃になると、母貝は再び干潟に現れ、卵嚢を産み付けます。卵嚢は“砂茶碗”と呼ばれるように砂で作った茶碗を伏せたような形をしています。産卵は9月末まで行われ、10月中・下旬には稚貝が卵嚢から孵出てきます。直径1.2cmの卵嚢だと、約4,000個も稚貝が出てきます。稚貝の大きさは1.5mm位ですが、孵出直後から同サイズのアサリを捕食します。さらに水温が低下する11月以降になると、さらに多くの成貝や幼貝が干潟に出現しますが、この頃は夜間しか潮が引かないので日中、人目に触れることはあまりありません。干潟が最低水温期を迎える1～2月でも夜の干潟には多数の出現が見られ、寒さに強いことがよくわかります。



A 貝殻覆腹面



B 貝殻背面



食害を受けたアサリ



伸展させた軟体

## サキグロタマツメタの干潟上活動期



## 【成貝・幼貝の駆除】

現在のところ、サキグロを簡便かつ効率的に駆除する方法は徒手採捕(拾う)しかありません。従って、サキグロが干潟に多く集まり、砂上で活発に行動している時がチャンスとなるわけです。その時期は前記のように年2回あります。潮干狩りシーズンの4～5月と初冬の11～2月です。前者は日中に潮がよく引くため効率的な採捕が可能です。後者は夜間となるため、ライトが必要となりますが、春以上に高密度で干潟に出現します。

駆除はなるべく潮が大きく引く日(平均海面から - 80cm以下)を選んで実施して下さい。作業時間も長くとれるし、日頃行けない沖の方まで駆除できます。採捕に当たっては、同じところを何度も回らないよう、田植えのように列になって進みましょう。砂上に出ている3cm以上のサキグロは比較的容易に見つけられますが、小型の個体や砂に埋もれている貝を見つけるにはコツが入ります。サキグロが這い回った後には砂に筋状の跡を残すので、これを目印に追えば、その先にサキグロがいるはずで

す。採捕した貝は総重量を測定し、1Kg当たりの個数(採捕個数を推定するため)を計数しておいて下さい。これと何人が駆除に参加し、実質、何時間何分作業したか記録しておく、今後の駆除の効果を判定することができます。

駆除したサキグロは空気中でも2～3日は生きていますので海辺に放置せず、焼却もしくは埋設するなどの確実な処理を行って下さい。なお、サキグロは食用ともなりますが、肉が硬く粘液が多いので、一度、茹で上げ、身を取り出してからよく洗って、再度、煮付けなどの加熱調理をすると美味しく食べられます。

## 【卵囊の駆除】

卵囊の駆除は産卵が終了する9月末から稚貝の孵出が始まる10月中旬までの間に行うのが最も望ましいのですが、10月に入ると日中にあまり潮が引かなくなるため、9月下旬の日中に最も潮が引く日に駆除を実施し、その補足として10月中旬までの最も引く日(夜間)にも実施することを推奨します。卵囊は目立つので、海水の透明度さえよければ、干潟が干出していなくても小型船で探索しながら採捕することもできます。また、藻場やカキ殻などのない干潟であれば、曳き網による採捕もできますが、この漁法を用いる場合は水産漁港部への届け出が必要となります。

徒手採捕の場合は成貝の駆除と同様、採捕者が列をなして行うことが無駄をなくすコツです。水に立ち込みながら拾う場合や数が多い場合には玉網やヤスを用いると効率が上がりますし、腰が痛くなりません。

卵囊も十分に乾燥させるなどの処理を行って下さい。湿っている限り中の稚貝は生きています。また、貝と同様、採集した個数や作業時間や人数等のデータは残しておくようにして下さい。



干潟を匍匐するサキグロ



干潟に産み付けられた卵囊



孵出直後の稚貝(1.5mm)